

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 登録実用新案公報(U)

(11) 実用新案登録番号

実用新案登録第3116285号
(U3116285)

(45) 発行日 平成17年12月2日(2005. 12. 2)

(24) 登録日 平成17年10月19日(2005. 10. 19)

(51) Int.Cl.⁷

A 4 7 L 13/38

A 4 7 L 13/52

F I

A 4 7 L 13/38

A

A 4 7 L 13/52

1 O 1

評価書の請求 未請求 請求項の数 9 O L (全 12 頁)

(21) 出願番号 実願2005-7149 (U2005-7149)
(22) 出願日 平成17年8月31日(2005. 8. 31)(73) 実用新案権者 000133928
株式会社テラモト
大阪府大阪市天王寺区松ヶ鼻町4番44号
(74) 代理人 100086380
弁理士 吉田 稔
(74) 代理人 100103078
弁理士 田中 達也
(72) 考案者 寺本 正治
大阪市西区立売堀3丁目5番29号 株式
会社テラモト内

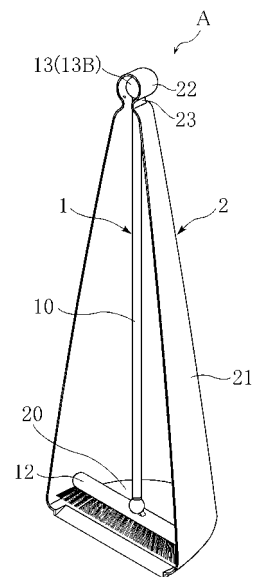
(54) 【考案の名称】 清掃具とちり取りとのセット

(57) 【要約】

【課題】 外観上の体裁を良好にするとともに、清掃具の支持機構の簡素化を図り、ちり取りに対する清掃具の支持・分離操作を簡単にすること。

【解決手段】 柄10の一端に掃きヘッド12を取り付けた清掃具1とこれを支持するちり取り2とのセットAであって、清掃具1は、柄10の他端に大径部13Bを有し、ちり取り2は、略半円形をしてその弦をなして延びる前縁を掃き入れ縁とした底板20と、掃き入れ縁の両端から連続し、かつ底板20に略垂直な前縁をもつとともに、底板20の略半円弧縁から立ち上がる水平断面略半円弧状の側板21と、側板21の上部に形成され、底板20と側板21とで囲まれる空間とくびれ部23を介して上方に連続し、かつ前方に開放部を有する支持空間を有する把持部22と、を備える。支持空間は大径部13Bを開放部から挿入して収容可能で、くびれ部23は柄10を上下方向に通しつつ大径部13Bに係止可能である。

【選択図】 図1



【実用新案登録請求の範囲】

【請求項 1】

柄の一端部に掃きヘッドを取り付けた清掃具とこの清掃具を収容支持可能なちり取りとのセットであって、

上記清掃具は、上記柄の他端部に大径部を有しており、

上記ちり取りは、略半円形をしていてその弦をなして延びる前縁を掃き入れ縁とした底板と、上記掃き入れ縁の両端から連続し、かつ上記底板に対して垂直ないし略垂直な前縁をもつとともに、上記底板の半円弧ないし略半円弧縁から立ち上がる水平断面略半円弧状の側板と、上記側板の上部に形成され、上記底板と上記側板とで囲まれる空間とくびれ部を介して上方に連続し、かつ前方に開放部を有する支持空間を有する把持部と、を備えて

10

上記支持空間は、上記清掃具の柄の他端部の大径部を上記開放部から挿入して収容可能であり、上記くびれ部は上記柄を上下方向に通しつつ上記大径部を係止可能であることを特徴とする、清掃具とちり取りとのセット。

【請求項 2】

上記側板は、どの水平断面をとっても略半円弧状であるとともに、水平断面は上方に向かうほど縮小しており、上記くびれ部を介して上記把持部につながっている、請求項 1 に記載の清掃具とちり取りとのセット。

【請求項 3】

上記側板、上記くびれ部、ないし上記把持部の各前縁は、一定の垂直面内に位置する、

20

【請求項 4】

上記清掃具の掃きヘッドの幅は、上記ちり取りの底板の前縁の寸法と略対応している、請求項 3 に記載の清掃具とちり取りとのセット。

【請求項 5】

上記ちり取りにおける上記くびれ部から底板までの寸法は、上記清掃具の柄の上記大径部の直下部から上記掃きヘッドの下縁までの寸法と対応している、請求項 4 に記載の清掃具とちり取りとのセット。

【請求項 6】

上記ちり取りは、樹脂により一体成形されている、請求項 1 ないし 5 のいずれかに記載の清掃具とちり取りとのセット。

30

【請求項 7】

上記清掃具の上記大径部は、上記柄の長手軸線周りの回転体形状とされている、請求項 1 ないし 6 のいずれかに記載の清掃具とちり取りとのセット。

【請求項 8】

上記清掃具の上記大径部は、球形である、請求項 7 に記載の清掃具とちり取りとのセット。

【請求項 9】

上記ちり取りの上記把持部の内面には、上記くびれ部の近傍、かつ上記開放部の近傍において、上方に突出する一対の突起が形成されている、請求項 1 ないし 8 のいずれかに記載の清掃具とちり取りとのセット。

40

【考案の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本考案は、清掃具と、この清掃具を分離自在に支持するちり取りとからなる、清掃具とちり取りのセットに関する。

【背景技術】

【0002】

ほうきなどの清掃具は、たとえば床面の清掃時には、ちり取りと一緒に使用されることが多い。このため、収納や持ち運びの便宜上、清掃具とちり取りとは、一纏めにして取り

50

扱うことができれば好都合である。このような事情に対応すべく、従来から、清掃具をちり取りに分離自在に支持させる構成が種々採用されている。

【0003】

清掃具と、この清掃具を支持可能なちり取りとを有する構成については、たとえば特許文献1に記載されている。特許文献1においては、ちり取りは、集塵部としての矩形箱型の基台部と、この基台部から上向きに立ち上がる支柱と、この支柱の上端に設けられた把手とを備え、清掃具は、柄と、この柄の先端部に取り付けられた掃きヘッドとを備える。また、ちり取りの把手は、相互に開閉自在な一对のアームを有しており、このアームには、清掃具の柄を収容保持可能な凹溝が形成されている。清掃具を使用しないときには、清掃具の柄をちり取りのアームの凹溝に保持させたうえでアームを閉状態としておくことにより、清掃具を、起立姿勢にてちり取りに支持させることができる。すなわち、このような構成によれば、清掃具を、壁に立て掛けるなどの不安定な姿勢をとることなく、ちり取りとともに起立姿勢で配置することができる。

10

【0004】

ところで、特許文献1に記載された構成によれば、清掃具とちり取りとを一纏めにして起立姿勢で配置することができるものの、一見して清掃具とちり取りであると判り易い。したがって、このような構成は、たとえば店舗内の清掃用としての利用を考慮すると、顧客の目に付く場所に配置するのは外観上体裁が悪く、好ましくない。しかしながら、理美容室などにおいては、床面に落ちた毛髪を速やかに掃き取ることが必要とされ、清掃具とちり取りの使用頻度は多い傾向にあるので、通常、これらを顧客の目に付く場所に配置することを避けるのは困難な状況にある。また、理美容室などでは、室内装飾の統一感を重視する傾向にあるが、一見して清掃具およびちり取りであると判り易い上記構成は、室内装飾の統一感を崩す要因にもなり、より一層好ましくない。さらに、上記構成では、清掃具の使用の際に、清掃具をちり取りに支持させる、あるいはちり取りから分離させる度ごとに、ちり取りのアームの開閉状態を切替える必要があり、その操作が煩わしく、清掃作業性が低下するといった不都合が生じる。

20

【0005】

【特許文献1】特開2004-49391号公報

【考案の開示】

【考案が解決しようとする課題】

30

【0006】

本考案は、このような事情のもとで考え出されたものであって、清掃具と、この清掃具を支持可能なちり取りとのセットにおいて、外観上の体裁を良好にするとともに、清掃具の支持機構の簡素化を図り、ちり取りに対する清掃具の支持・分離操作が簡単な清掃具とちり取りとのセットを提供することを課題としている。

【課題を解決するための手段】

【0007】

上記の課題を解決するため、本考案では、次の技術的手段を講じている。

【0008】

本考案によって提供される清掃具とちり取りとのセットは、柄の一端部に掃きヘッドを取り付けた清掃具とこの清掃具を収容支持可能なちり取りとのセットであって、上記清掃具は、上記柄の他端部に大径部を有しており、上記ちり取りは、略半円形をしていてその弦をなして延びる前縁を掃き入れ縁とした底板と、上記掃き入れ縁の両端から連続し、かつ上記底板に対して垂直ないし略垂直な前縁をもつとともに、上記底板の半円弧ないし略半円弧縁から立ち上がる水平断面略半円弧状の側板と、上記側板の上部に形成され、上記底板と上記側板とで囲まれる空間とくびれ部を介して上方に連続し、かつ前方に開放部を有する支持空間を有する把持部と、を備えており、上記支持空間は、上記清掃具の柄の他端部の大径部を上記開放部から挿入して収容可能であり、上記くびれ部は上記柄を上方向に通しつつ上記大径部を係止可能であることを特徴としている。

40

【0009】

50

このような構成の清掃具とちり取りとのセットにおいては、ちり取りは、集塵部を規定する側板が底板の半円弧ないし略半円弧縁から立ち上がる水平断面略半円弧状とされている。このため、本考案に係るちり取りは、側板を手前側に向けて（すなわち、掃き入れ縁を奥側に位置させる）起立させることにより、全体として略円柱状ないし略円錐状に見え、ちり取りであるとは判別できず、むしろインテリアの一部に同化し、外観上の体裁が良好となる。

【0010】

また、上記構成においては、ちり取りの側板の上部に形成される把持部は、底板と側板とで囲まれる空間とくびれ部を介して上方に連続し、かつ前方に開放部を有する支持空間を有している。このため、清掃具を使用しない際には、清掃具の柄の端部に設けられた大径部をちり取りの把持部の開放部から挿入するという簡単な操作により、当該大径部が、上記支持空間に収容されるとともにくびれ部により係止されることとなり、清掃具をちり取りに支持させることができる。また、清掃具を使用する際には、清掃具の柄を掴み、当該清掃具の大径部がちり取りの開放部を通過するように引き出すという簡単な操作により、清掃具をちり取りから分離することができる。このように、本考案においては、清掃具の支持機構の簡素化が図られており、ちり取りに対する清掃具の支持・分離操作は、清掃具だけを掴むことにより行うことができる。そのため、清掃具の使用頻度が多い場合でも、清掃具の支持・分離操作が煩雑であることに起因して清掃作業性が低下することはない。

10

【0011】

本考案の好ましい実施の形態においては、上記側板は、どの水平断面をとっても略半円弧状であるとともに、水平断面は上方に向かうほど縮小しており、上記くびれ部を介して上記把持部につながっている。

20

【0012】

このような構成によれば、ちり取りが全体として上方に向かって窄む略円錐形状となるので、ちり取りの重心位置を低くすることができ、起立姿勢での安定化を図るうえで好適である。

【0013】

本考案の好ましい実施の形態においては、上記側板、上記くびれ部、ないし上記把持部の各前縁は、一定の垂直面内に位置する。

30

【0014】

本考案の好ましい実施の形態においては、上記清掃具の掃きヘッドの幅は、上記ちり取りの底板の前縁の寸法と略対応している。好ましい実施の形態においてはまた、上記ちり取りにおける上記くびれ部から底板までの寸法は、上記清掃具の柄の上記大径部の直下部から上記掃きヘッドの下縁までの寸法と対応している。

【0015】

このような構成によれば、清掃具について、その全体を、ちり取りにおける底板と側板とで囲まれる空間ないし把持部の支持空間に収容することが可能となる。このため、ちり取りの側板を手前側に向けておくと、ちり取りに収容支持された清掃具は、一切見えない。したがって、この構成は、外観上の体裁を良好にするうえで、好適である。

40

【0016】

本考案の好ましい実施の形態においては、上記ちり取りは、樹脂により一体成形されている。

【0017】

このような構成によれば、本考案に係るちり取りを効率よく製造することができる。また、ちり取りの重量が抑制され、清掃作業や持ち運びの際の負担が軽減される。

【0018】

本考案の好ましい実施の形態においては、上記清掃具の上記大径部は、上記柄の長手軸線周りの回転体形状とされている。

【0019】

50

このような構成によれば、清掃具の大径部は、柄の長手軸線周りの回転による姿勢の変化に対して、方向性を有しない。したがって、清掃具の大径部をちり取りの開放部から挿入する際には、開放部に対して大径部の向きを合わせる必要がなく、清掃具の支持操作を簡単にするうえで好適である。

【0020】

本考案の好ましい実施の形態においては、上記清掃具の上記大径部は、球形である。

【0021】

このような構成によれば、柄が若干傾いた姿勢であっても、清掃具の大径部をちり取りの開放部から挿入することができる。

【0022】

本考案の好ましい実施の形態においては、上記ちり取りの上記把持部の内面には、上記くびれ部の近傍、かつ上記開放部の近傍において上方に突出する一对の突起が形成されている。

【0023】

このような構成によれば、清掃具がちり取りに収容支持された状態において、ちり取りの把持部の開放部側が若干下がるように傾いても、突起により、清掃具の大径部の上記開放部側への移動が規制される。したがって、本考案に係る清掃具とちり取りとのセットを持ち運ぶ際に清掃具がちり取りから不用意に脱落することは防止され、使い勝手が良好となる。

【0024】

本考案のその他の特徴および利点は、添付図面を参照して以下に行う詳細な説明によって、より明らかとなろう。

【考案を実施するための最良の形態】

【0025】

以下、本考案の好ましい実施の形態について、図面を参照して具体的に説明する。

【0026】

図1は、本考案に係る清掃具とちり取りとのセットの一例を示し、清掃具をちり取りに収容支持させた状態を表す斜視図である。図2は、図1に表された上記セットの正面図である。図3は、図1に表された上記セットの背面図である。図4ないし図7は、図1に表された清掃具を示す図である。図8ないし図10は、図1に表されたちり取りを示す図である。

【0027】

図1に表れているように、上記セットAは、ほうきとして構成された清掃具1と、この清掃具1を収容保持可能なちり取り2とからなる。

【0028】

清掃具1は、図1、図2、図4、図5に表されているように、柄10と、柄10の一端部に連結部材11を介して取り付けられた掃きヘッド12と、柄10の他端部に設けられた基端部材13とを備える。柄10は、アルミニウムなどの軽量の金属材料により形成されており、中空の棒状である。

【0029】

掃きヘッド12は、図4ないし図6に表れているように、所定長さを有する略円柱状のヘッド部14と、ヘッド部14の下部の適所に植設された複数本の刷毛15とを備える。ヘッド部14は合成樹脂製であり、その上部中央には所定厚みの突片14Aが一体形成されている。突片14Aは、その周縁が球面とされるとともに、厚み方向に貫通孔14bが形成されている。

【0030】

連結部材11は、図5、図6に表れているように、第1および第2部材16、17からなり、たとえば合成樹脂製である。第1および第2部材16、17は、柄10の端部に嵌合される半円柱状の軸部16A、17Aと、連結片16B、17Bとを有する。連結片16B、17Bは、その外面が突片14Aの周縁と略同一の曲率からなる球面とされるとと

10

20

30

40

50

もに、その内面には筒部 16 c, 17 c が突出形成されている。第 1 部材 16 の筒部 16 c は、第 2 部材 17 の筒部 17 c の内面に嵌合しうる外径を有する。突片 14 A の貫通孔 14 b に筒部 16 c, 17 c を挿通させることにより、突片 14 A はその厚み方向において連結片 16 B, 17 B に挟まれている。これにより、掃きヘッド 12 は、連結部材 11 からの脱落が防止されており、また、柄 10 と掃きヘッド 12 とは、連結部材 11 を介して、柄 10 の長手軸線およびヘッド部 14 の長手軸線に略直交する中心軸 C 1 周りに揺動可能な状態で連結されている。この連結状態において、柄 10 と掃きヘッド 12 とは、第 1 および第 2 部材 16, 17 と突片 14 A との摩擦により揺動に所定の抵抗が与えられている。このため、図 4 において仮想線で表されているように柄 10 を傾斜させたうえで、掃きヘッド 12 を床面から離間させても、当該傾斜姿勢が保たれる。また、上記連結状態において、連結片 16 B, 17 B の外面と突片 14 A の周縁とは、連続する球面を形成している。 10

【0031】

基端部材 13 は、図 7 に表れているように、柄 10 の端部に嵌合される軸部 13 A と、大径部 13 B とを備え、たとえば合成樹脂製である。大径部 13 B は、柄 10 の長手軸線周りの回転体形状の一例である球形をなしており、その外径 D 1 が後述するちり取り 2 のくびれ部 23 の幅 W 1 よりも大とされている。

【0032】

ちり取り 2 は、図 8 ないし図 10 に表れているように、底板 20 と、側板 21 と、把持部 22 と、くびれ部 23 とを備え、各部の厚みが略一定となるようにして、ポリプロピレンなどの樹脂材料により一体成形されたものである。 20

【0033】

底板 20 は、床面上に略水平に置かれる部分であり、比較的に大面積を有する略半円形とされている。底板 20 の略半円形における弦に相当する端縁部分は、塵を掃き入れるための掃き入れ縁 20 a とされている。底板 20 の上面の掃き入れ縁 20 a 近傍には、掃き入れ縁 20 a に向かうにつれて下がる傾斜面 20 b が形成されている。

【0034】

側板 21 は、底板 20 を包囲することにより集塵部を規定する部分であり、底板 20 の略半円弧縁から上方に立ち上がっている。側板 21 の水平断面は、略半円弧状であるとともに上方に向かうほど縮小している。側板 21 はまた、底板 20 の掃き入れ縁 20 a 側（以下、前方とする）に臨む前縁 21 a を有し、この前縁 21 a は、掃き入れ縁 20 a の両端から連続するとともに、底板 20 に対して略垂直をなしている。すなわち、側板 21 は、全体として上方に向かって窄む中空の略半円錐状とされている。 30

【0035】

把持部 22 は、後方に球面突部を有する砲弾状とされており、くびれ部 23 を介して側板 21 の上部につながっている。把持部 22 はまた、下方において一部切欠きを有する略円形の前縁 22 a を有し、この前縁 22 a により、前方に開放する開放部 22 b が形成されている。この前縁 22 a もまた、側板 21 の前縁 21 a と連続して底板 20 に対して略垂直をなしている。開放部 22 b は、清掃具 1 の大径部 13 B を、当該大径部 13 B と前縁 22 a ないし把持部 22 の内面との間に若干の融通をもちながら通過させ得る寸法とされている。把持部 22 により囲まれた空間は、清掃具 1 の大径部 13 B を収容可能な支持空間 22 c である。把持部 22 の内面には、上方に突出する一对の突起 22 d が形成されている。一对の突起 22 d は、くびれ部 23 の近傍、かつ開放部 22 b の近傍において、くびれ部 23 の幅方向に離間して位置する。 40

【0036】

くびれ部 23 は、これにつながる側板 21 の上部ないし把持部 22 の下部に比べて、その幅（図 9 における左右方向）および奥行き（図 10 における左右方向）が狭められた部分である。くびれ部 23 の幅 W 1 は、清掃具 1 の柄 10 の外径よりも大とされている。一方、上述したように、清掃具 1 の大径部 13 B の外径は、くびれ部 23 の幅 W 1 よりも大とされている。これにより、図 2 に表れているように、清掃具 1 の大径部 13 B が支持空 50

間 2 2 c に収容されると、くびれ部 2 3 において、柄 1 0 が上下方向に通じるとともに大径部 1 3 B が係止される。

【0037】

図 2 によく表されているように、ちり取り 2 においては、その底板 2 0 の前縁の長さ L 1 が清掃具 1 の掃きヘッド 1 2 の幅 W 2 よりも僅かに大きくされ、また、くびれ部 2 3 から底板 2 0 までの長さ L 2 は、清掃具 1 の大径部 1 3 B の直下部から掃きヘッド 1 2 の下縁までの長さ L 3 よりも僅かに大きくされている。これにより、清掃具 1 の大径部 1 3 B が支持空間 2 2 c に収容されると、清掃具 1 の全体が、ちり取り 2 における底板 2 0 と側板 2 1 とで囲まれる空間ないし把持部 2 2 の支持空間 2 2 c に収容されることとなる。

【0038】

次に、上記した清掃具 1 とちり取り 2 とのセット A の作用について説明する。

【0039】

上記セット A において、ちり取り 2 の側板 2 1 は、全体として上方に向かって窄む中空の略半円錐状とされている。このため、ちり取り 2 は、側板 2 1 を手前側に向けて起立させることにより、全体として略円錐状に見えることとなる（図 3 参照）。これは、ちり取りの集塵部として一般的に知られた矩形箱型とは大きく異なる形状であるため、ちり取りであるとは判別できず、むしろインテリアの一部に同化することとなって、外観上の体裁が良好である。加えて、ちり取り 2 が全体として上方に向かって窄む構成は、ちり取りの重心位置を低くすることができ、ちり取り 2 ないし上記セット A の起立姿勢での安定化を図るうえで好適である。

【0040】

上記セット A においては、ちり取り 2 の側板 2 1 の上部に形成された把持部 2 2 は、底板 2 0 と側板 2 1 とで囲まれる空間とくびれ部 2 3 を介して上方に連続している。また、把持部 2 2 は、その前方に清掃具 1 の大径部 1 3 B を通過させ得る開放部 2 2 b を有するとともに、大径部 1 3 B を収容可能な支持空間 2 2 c を有する。このため、清掃具 1 を使用しない際には、清掃具 1 の柄 1 0 を掴み、柄 1 0 の端部に設けられた大径部 1 3 B をちり取り 2 の把持部 2 2 の開放部 2 2 b から挿入するという簡単な操作により、大径部 1 3 B が支持空間 2 2 c に収容されるとともにくびれ部 2 3 により係止されることとなり、清掃具 1 をちり取り 2 に支持させることができる。本実施形態では、大径部 1 3 B が球形とされているため、大径部 1 3 B は、柄 1 0 の長手軸線周りの回動による姿勢の変化に対して、方向性を有さない。したがって、大径部 1 3 B をちり取り 2 の開放部から挿入する際に、開放部 2 2 b に対して大径部 1 3 B の向きを合わせる必要がなく、清掃具 1 のちり取り 2 への収容操作がより簡単となる。さらに、大径部 1 3 B が球形であると、柄 1 0 が若干傾いた姿勢であっても、大径部 1 3 B を開放部 2 2 b から挿入することができる。

【0041】

ここで、清掃具 1 は、その全体がちり取り 2 における底板 2 0 と側板 2 1 とで囲まれた空間ないし把持部 2 2 の支持空間 2 2 c に収容されるため、ちり取り 2 の側板 2 1 を手前側に向けておくと、ちり取り 2 に収容支持された清掃具 1 は一切見ることがない（図 3 参照）。したがって、このような構成の清掃具 1 とちり取り 2 とのセット A によれば、外観上の体裁がより一層良好となる。

【0042】

清掃具 1 を使用する際には、清掃具 1 の柄 1 0 を掴み、清掃具 1 の大径部 1 3 B がちり取り 2 の開放部 2 2 b を通過するように引き出すという簡単な操作により、清掃具 1 をちり取り 2 から分離することができる。このように、本実施形態においては、ちり取り 2 に対する清掃具 1 の支持・分離操作は、清掃具 1 だけを掴むことにより行うことができる。そのため、清掃具 1 の使用頻度が多い場合でも、清掃具の支持・分離操作が煩雑であることに起因して清掃作業性が低下することはない。

【0043】

また、上記セット A においては、ちり取り 2 の底板 2 0 の前縁の長さ L 1 が清掃具 1 の掃きヘッド 1 2 の幅 W 2 よりも僅かに大きくされ、かつ、ちり取り 2 のくびれ部 2 3 から底

10

20

30

40

50

板 2 0 までの長さ L 2 が清掃具 1 の大径部 1 3 B の直下部から掃きヘッド 1 2 の下縁までの長さ L 3 よりも僅かに大きくされている。このため、ちり取り 2 の底板 2 0 上に塵を掃き入れたままにしても、清掃具 1 をちり取り 2 に収容支持させておくことにより、底板 2 0 上の塵のちり取り 2 の前縁側への移動は、清掃具 1 の掃きヘッド 1 2 により効率よく阻止される。したがって、本実施形態によれば、一旦ちり取り 2 内に回収された塵が不用意に周囲に散乱することは、防止される。加えて、ちり取り 2 の側板 2 1 を手前側に向けておくと、ちり取り 2 内に回収された塵は、一切見えない。

【0044】

なお、ちり取り 2 の把持部 2 2 の内面には、くびれ部 2 3 の近傍、かつ、開放部 2 2 b の近傍において、上方に突出するとともに左右に離間する一対の突起 2 2 d が形成されているため、ちり取り 2 の前方（開放部 2 2 b 側）が若干下がるように傾いても、突起 2 2 d により大径部 1 3 B の前方への移動が規制される。したがって、上記セット A を持ち運ぶ際に清掃具 1 がちり取り 2 から不用意に脱落することは防止されることとなり、使い勝手が良好である。

10

【0045】

以上、本考案の具体的な実施形態を説明したが、本考案はこれに限定されるものではなく、考案の思想から逸脱しない範囲内で種々な変更が可能である。

【0046】

本考案における清掃具は、柄の一端部に掃きヘッドが取り付けられたものであれば、如何なる構造であってもよい。清掃具としては、ほうきに限定されるものではなく、たとえばワイパーなどの他の種類の清掃具であってもよい。また、上記実施形態では、清掃具の柄と掃きヘッドとが揺動可能に連結された構成であるが、柄と掃きヘッドとが固定的に連結された構成としてもよい。

20

【0047】

本考案に係る清掃具、およびちり取りの各部の具体的な形状や材質なども、上記実施形態に限定されるものではない。

【図面の簡単な説明】

【0048】

【図 1】本考案に係る清掃具とちり取りとのセットの一例を示す斜視図である。

【図 2】本考案に係る清掃具とちり取りとのセットの一例を示す正面図である。

30

【図 3】本考案に係る清掃具とちり取りとのセットの一例を示す背面図である。

【図 4】図 1 に示した清掃具の正面図である。

【図 5】図 1 に示した清掃具の要部側面図である。

【図 6】図 5 の縦断面図である。

【図 7】図 1 に示した清掃具の要部断面図である。

【図 8】図 1 に示したちり取りの斜視図である。

【図 9】図 1 に示したちり取りの正面図である。

【図 10】図 1 に示したちり取りの側面図である。

【符号の説明】

【0049】

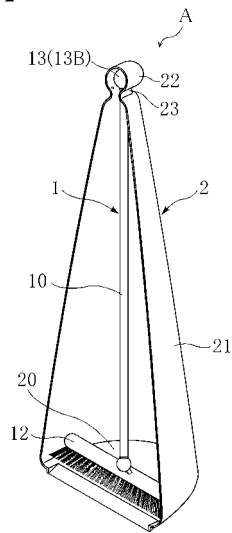
40

- A セット
- 1 清掃具
- 2 ちり取り
- 1 0 柄
- 1 2 掃きヘッド
- 1 3 B 大径部
- 2 0 底板
- 2 0 a 掃き入れ縁
- 2 1 側板
- 2 1 a 前縁（側板の）

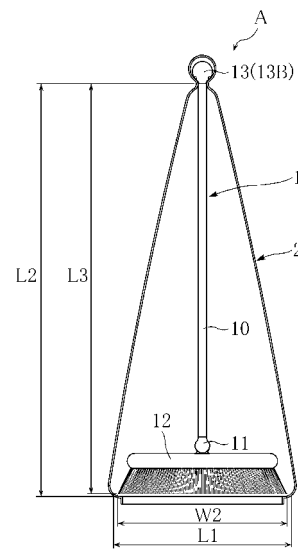
50

- 2 2 把持部
- 2 2 b 開放部
- 2 2 c 支持空間
- 2 3 くびれ部

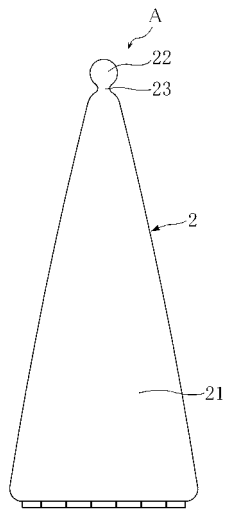
【図 1】



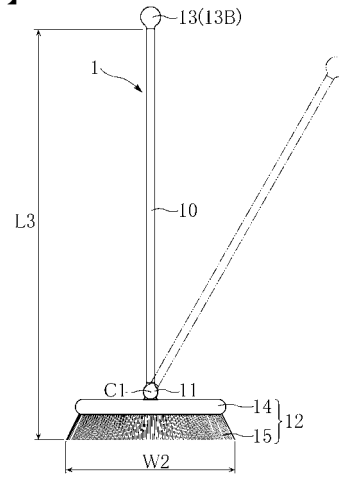
【図 2】



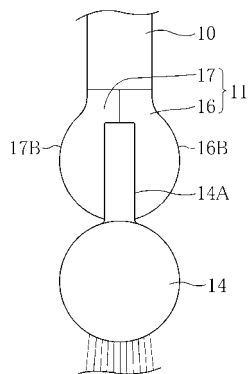
【図 3】



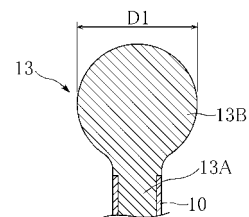
【図 4】



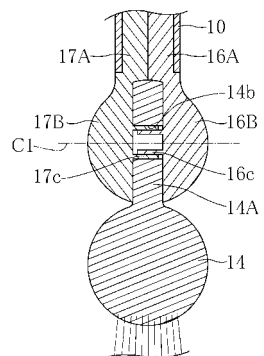
【図 5】



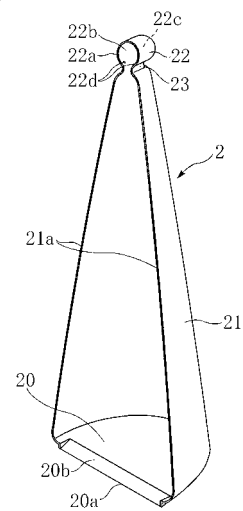
【図 7】



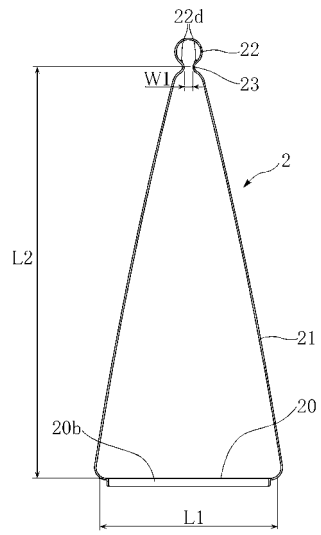
【図 6】



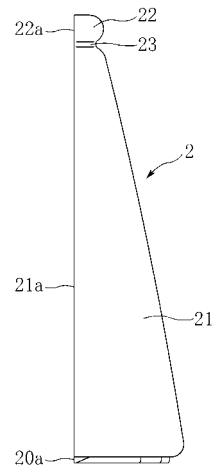
【図 8】



【図 9】



【図 10】



フロントページの続き

【要約の続き】